

## 第2回長井市第3次食育推進計画策定推進委員会議事録

【日時】2023/12/11 10:00～11:30

【場所】長井市給食共同調理場

【出席者】

- ◆委員：小野卓也委員、鈴木よう子委員、横山小市委員、井上恵委員、菅野春平委員、伊藤浩呉委員、安部香織委員、中川純子委員、佐藤朋江委員、尾形良一委員、坂本晃一委員、宇都久美子委員
- ◆事務局：健康スポーツ課安江栄養士、福祉あんしん課安達補佐、給食共同調理場安倍補佐、消費生活センター嘉藤相談員、学校教育課黒澤美紀指導主査  
農林課 梅津課長、石塚補佐、横山主査、丸山

---

### 【議事録】

#### 1 開会 進行：石塚補佐

#### 2 委員長あいさつ

今日は事務局にお願いをして、このように4つの島に分けて皆様方にそれぞれ話し合っていただくという形にさせていただいたので、どうぞ積極的にご意見を出していただき、これからの計画の策定が計画を作って終わりというわけではなくて、この計画を実際に動かしていくときにどういう風にうまく動いていくかということろまで想像させながら進められるようご協力をお願いしたい。よろしくお願いいたします。

#### 3 事務局説明

説明に入る前に事務局より本日の議事録を作成し、ホームページ等で公開させていただく旨を説明し了承を得る。

##### (1) 前回委員会の振り返り・・・事務局より説明

- ① 第2次計画の現状と課題
- ② 委員からの意見への対応(案)について

##### (2) 第3次計画の目標設定・・・事務局より説明

- ① 第3次計画の目指す姿(案)等について
- ② 目標ごとの基本施策と主な取り組み(案)について
- ③ 数値目標項目(案)について

#### ○委員長

資料5の目標1と目標4の数値目標設定項目がないというのはちょっと。他のと比べてバランスが悪いので体験機会とか、それから食文化の継承についても、行事食伝統食の提供というような形で具体的な取り組みがある。これは数えられるものなのでこれを今何回やっているのか、そこから増やして維持するかという形で目標値を設定することは可能なのではないか。他にも給食に関するもので数えられるものは結構ある。バイキング給食とか調理場だよりとかあるわけなので、別に増やすということでもなくていい。

#### ○事務局

おっしゃる通り、目標1目標4に目標がないと思っていたところなので、事務局の関係課の皆様とも協議をさせていただきながら、数値目標で入れるところがないか確認して次回の策定委員会までにご提案をさせていただきたい。

#### ○委員

ちょっとわからない点があって、コロナについて幾つか、資料4について。コロナ感染拡大して大変だよねというところから日常に戻ろうよという感じで今きている流れがあると私自身は考えていて、コロナという言葉がいくつか並んでいるがそこまで重要視する必要あるのか。例えば、目標が子供に影響が悪いからやめましょうと食事そのものを大きく変えなきゃいけないものではなくて、コロナ前に戻さなきゃいけないと思っているときに、コロナだからこれやめようあれやめようっていうのは食についてもマイナスに働くのではないか。あとデジタル化の推進って目標1の一番後ろの方にあるが、新型コロナによる新たな日常への対応はどういったことをするのかよくわからなかったのもそれも説明お願いしたい。

#### ○事務局

まず1点目のこれらに対してのこれからの進め方という部分につきましては、委員おっしゃる通り、今まではウィズコロナでどのようにコロナと一緒に対応していくかという部分から、それを乗り越えて新たなコロナ対策というところで動いている状況でもあるので、表現をどうするかも含めて少し事務局で検討させていただきたい。そこで色々考え方とか、行動も変わってきていて、いい部分と悪い部分が出てきているので、その辺りを整理しながら記載方法についても検討していきたい。あと2点目のデジタル化の推進ということでもちょっとわかりにくい表現になってしまい申し訳ありません。こちらで想定しているデジタル化の推進の一つといたしましてはデジタル化といえるかどうかだが、例えば伝承野菜の料理教室などをユーチューブ等で配信したり、食に対する情報をデジタルで推進するということを想定している。市全体の取り組みとしてもデジタル化の推進という大きな流れがある中で、何かしらその部分に長井らしさを入れたいというところで、デジタルはそういうものでないということもあるかと思うが、取り組みの一つでこういったこともあるのではないかと入れさせていただいている。もし、もっとこういうデジタルがあるというアイデアがあればぜひ教えていただきたい。

#### ○委員長

コロナに関しては前の話からの流れでこうなっていると思うが、この計画が終わる頃にはまだあったねって時代遅れ感が出かねないので、確かにその文言としては新型コロナっていう言葉を入れるかどうか、今後何年間も通用させるためには考えた方がいい。あとデジタル化については、今の話だとコロナとあまり関係ない。デジタル化はデジタル化で食に関する情報体験機会の充実の中の計画に入っていていいと思うがコロナと切り離してもいい。

#### ○委員

資料5の目標3給食における市内産農産物使用割合を新規に計画するということだが、これは使用割合は何か。品目か。量か。値段か。何をお考えか。

#### ○事務局

市内産農作物の使用割合ということで項目として挙げているが具体的にどの数値を使って割合

を出すかというところまではまだ詰めていない。項目としてこういった項目で新規に挙げさせていただいて、具体的に数値化できて管理ができる値を事務局会で検討させていただきたいが、特に今の時点でどの数値を使うかは決まっていない状況である。

○委員長

逆に調理場で既に使っている数値はあるのか。

○委員

山形県産、市内産、レインボー産の数値は出しているが、資料4をご覧いただきたいが目標3、第3次計画で対応すべき主な課題ということで、学校給食としては納入食材の数量確保ができていない。生産者の確保等は困難と言っている中で、作られていないものに数値目標を立てて、数値を上げると言われるのはかなり大変であるし、児童生徒が年々100人単位で減っていく中で、提供する給食量は少なくなる。それに対して、長井産を何とか頑張って使おうと思っても、作っていないため届かない。今年は白菜にしても里芋にしてもかなり努力はしていただいたが、1回分ようやくかき集めてもらって、リンゴに関しては全然今回はならなかったということで納めてもらえなかった。そんな中で新たにここで使用割合を上げると言われるのは正直かなり難しい。もっと生産を増やしていただくような取り組みを食育推進計画に入れてもらった方が良い。

○委員長

この数値目標自体に、目標化することに意味があるのかということだが。

○事務局

地産地消の推進というところで農林課でも進めている部分がありながら、なかなか農作物の提供ができていない現状で、厳しい状況ではあるが何かしらの目標値というものを設定させていただいて、少しでも現状維持でも、今の状態から改善できるかっていうところを把握していく方法もあるかなと感じているが、ただ現実的に難しいということであれば、また考えていく必要があるので、その辺りを事務局会の中でも、数値の取り方を検討させていただきながら、現実的に可能な範囲での目標値としてふさわしいものができるかどうか検討をさせていただきたい。

○委員長

今、問題が共有できたので、調理場と農林課でよく協議してふさわしい目標値の設定をお願いしたい。

○委員

資料4の主な取り組みを考えてきたが、例えば普及したいものでは防犯ポスターとか作品とか環境のポスターとか作文とかいろいろ出ているので、食育に関しても、食育のポスターとかお母さんと子供で考えたレシピコンテストとか、こちらからの情報提供だけでなく相手の方からももらうような計画は難しいだろうか。

○委員長

ポスターや何かコンテンツというイベント等々、いかがか。

○事務局

レシピコンテストやポスターという取り組みに関しては、目標1の食に関する情報、体験機会の充実というようにどこに当てはまってくる。後ほど資料7を使って、具体的な取り組みに対して、どういった内容をするのか記載している資料があるが、食に関する情報体験機会の充実という目標はこの4つの中でも、かなり積極的に取り組んでいく必要がある部分であるので、各課の取り組みの中でできそうなところを少しでも入れて情報発信、レシピについてもデジタル化の中で、そういったものができるのかも含めて検討したい。

○委員長

目標1の中に何らかの形で今いただいたアイデアが取組の中に含まれるか検討するということではよろしいか。

○事務局

はい。

### (3) 計画の構成について・・・事務局より説明

○委員長

先ほど委員からあったポスターやホームページやイベントは、この取り組みの具体的な内容がどこかに含まれるとすれば、どこに入るか。あるいは新たに、どこか目標1の中に新しい項目を作るべきか。そのあたりお考えをお聞かせいただきたい。

○事務局

先ほど委員からあったポスターやコンテストについて新たにポスターコンクールというようなものを新たに起こすというのは今の段階では具体的な案を持っておらず、実際にそこはできるのか調整も必要になる。デジタル化の取り組みの中で、レシピの周知はホームページの情報発信というところではできると思っているが、食に関する情報を体験機会の充実に対応する取り組みの中で食の情報提供や、体験機会の充実の取り組みで対応をさせていただけないかと考えている。ポスターについては今すぐできるかどうかという回答が難しいので、少し長い期間をかけて検討して調整させていただきたい。

○委員長

例えば一番頭にある「みんなで食卓を囲む日」という毎月19日っていうのはほとんど知られていないわけである。そういったものの周知でポスターを掲示するとか、それに合わせて年1回、食卓を囲む日に関わる何かイベント等々までいかなくても、そういう情報提供をするとか方法ある。何のポスターなのかというところで、心を育む給食週間とか、食育月間とか、何かしらポスター作れそうなものはごろごろしているのでその中で検討してもよい。

## 4 協議

### (1) 食育を具体的に推進していくために

- ① 食育推進における「長井らしさ」について
- ② 食育推進を共に進める関係団体について
- ③ 自分的に重点と考える施策について

4つの班で協議を行い意見を集約した。

#### ○1班

まずデジタル化の推進で、閲覧数がどれぐらいなのかが鍵であって、興味ないものは見ないのでちょっと難しい問題だという話が出た。親が興味なければ子供も興味が起きない。あやめレポにも何回か掲載したが、ここにいる方でもその記憶がある方があまりいない。どれぐらい見てもらったのが心配であるが重要だという話が出た。男性の料理教室や親子教室を土日に開催してみてもどうかという話が出た。あと、自由参加のイベントでは人が集まらないので強制でないと無理かもしれない。一つの例として、企業に協賛を認めることができるのではないかと。協賛は協賛金ではなくてその人の集めるもの。それに農協さんという内容。あと地産地消については、給食についてはちょっと難しいという部分があるが、自宅で食べる時はなるべく地産地消を進めていけるのではないかと意見があった。

#### ○2班

市として、様々な事業を行っている中で、できる部分とできないものと様々あると思うが、市として先頭に立ってこの事業をやっていくとか、市としての思いが欲しいという意見と、あとは例えば、子どもたちが好きなメニューの作り方とかレシピについて給食だよりでお知らせをしてそれを見て作ってくれる人もいると思うが、まさにデジタル化で作り方をしてもらえるとわかりやすいのではないかと。どこまでするというのは別として、そういったこともあるのではないかと意見があった。あと、男女を問わず料理の作り方をお知らせしてどうかという話があった。あと、小さい子供がいる家庭ではなかなか料理を作ることが難しくなってきたりして、咀嚼する力もだんだんなくなってきたりしている子どもが増えているというような現状の中で、食育の重要性だとか、取り組みが大事であるというような話をするであるとか、ここに絡めて、菓子パンとかを食べてくる子ども中にはいて、共働きでなかなか作ることもできない人が増えている中で、例えば食べ物を選ぶ能力、菓子パンではなくおにぎりを選ぶとか、野菜を選ぶような「選ぶ能力」も大事ではないかという意見があった。

#### ○3班

まず一番最初に食育推進計画を作る意義から始まって、食育はやっぱり“育てる”なので子どもたちをどう関わらせるかっていうところが非常に重要だろうという視点で、計画として数値とかが必要なのはわかるけども、いかに具体的な行動、アクションというものを見える化していくかということの方が重要なのではないかとのお話をされていた。食育については、食は家庭が基本になるということで、家庭での活動は非常に息の長い話で、すぐすぐ数字に表れないけど大事な大切な要素があるというのが全体として出された意見だった。なので、例えば周知の部分に関してお知らせするとか、もう数値的にこうなっているというより、今関係団体とかやっているような事業だとか、そういったものを紹介して子どもたちと大人が食に関して一緒にいろいろ楽しんでるっていう姿を見せてくこととかの方が長井らしさも出るし、将来的に子どもたちの成長にすごく役立つんじゃないかという意見をいただいた。なので、計画は国から言われて作らなきゃならないっていう事情もあるかもしれないが、そこはそこで置いておいて、長井は長井らしい情報発信の仕方とか、数値に見えないところっていうのをどんどん出していくという話だった。関係団体としては具体的には、農協さんの青年部が子どもたちと一緒に親子でカレーを作ろうって活動したり、コミセンを巻き込んでもいいのではないかと

いう話で、PTA 関係もいろんな事業をやっているの、そういうのを情報共有する中でどんどん外向けに情報発信していくというのが計画ですとか数値ですというより有意義になってくるという意見をいただいた。あと、学校給食で地元のもの食べるって意義をもっと深掘りして子どもたちと会話する機会があってもいいっていう議論もあった。栄養教諭の先生からも言っていたが、少々高くても地元のものを買う意義って何かというところをもっと子どもたちも知ってもらって、学校給食で地元食材を使うのは効率も悪いし値段もというところがあるけども、だけど地元のものを使うことで地元の生産者がさらにそのお金を回して地元の商店街でバイヤーに流れる。地域にいかにお金回すっていうのは大切なんだよとかそういうところまで踏み込んでもいいのかなっていうお話も出ていた。そのためには見える実践活動としてコンテストとか作文というのがわかりやすく、いい作文をあやめレポで紹介したりとか、コンテスト写真撮ったりとか、何かそういうのをやっていると、より長井らしい実践的な食育活動になる。そして息の長い活動としてやっていった方がいいのではないかという話だった。

#### ○4班

既に食改で食育についてかなり多くの活動をされているのにその活動が周りに周知されていないということで、市のホームページやあやめレポなどを使って周知していくという話が出た。食育の啓発ということについては、啓発できそうなものがたくさんあるので食卓を囲む日をポスターとかで周知ができるのではというご意見があった。デジタル化というところでは、ポイント制で何かできることがないかということで、地産地消で長井市の野菜を買うとポイントが入るとか農業者にポイントが入るとかで何かお得感があると食育に関して関心を持っていただけるのではという意見もあった。またながいコインもうまく活用できないかという話もあった。周知方法としては、市のごみカレンダーにもごみだけじゃなくて食育のことも載せると、高齢者だとデジタル化だとなかなかスマホとか使えなくて見れないので、ごみカレンダーだと色々な方に見ていただけるのではというご意見が出た。

#### 5 その他

次回策定委員会開催について

候補

- ① 令和6年1月29日(月)13時30分～ 場所：庁議室
- ② 令和6年2月 6日(火)10時～ 場所：庁議室
- ③ 令和6年1月23日(火)10時～ 場所：市民防災研修室

#### 6 閉会

以 上